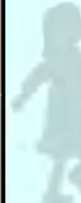


# 中村設計新聞



## 第九十八号

二月十九日 雨

今月の午前中は通常業務行い、午後から美術館へ鑑賞に行きました。

おかげさまで  
創立55周年

### ○龍谷ミュージアム

今月の土曜研修は、龍谷ミュージアムで開催されている「仏像ひな型の世界Ⅲ」「仏教の思想と文化」「インドから日本へ」の展示をコロナ感染状況を踏まえ個々で鑑賞しました。

多くの仏像がつくられた江戸時代は、飛鳥時代より蓄積されてきた仏像に関する技術が開花した時代で、その造形活動の中心を担った京都仏師たちが使っていたのが雛型です。雛型は建築でいえば設計図面にあたる存在です。大きな仏像をどのようにして効率的に制作するかを考えるためのミニチュア、完成予想図としての役割を果たしたとされており、共通点を感じました。



←常設展示のベゼクリク石産の復元壁画も興味深かったです。

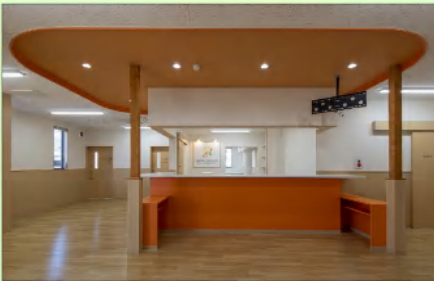
### ○消化器内科クリニック 新築工事

愛知県豊橋市にクリニックが竣工しました。

周辺に低層住宅が多いので、高さに配慮し、平屋建てとしました。内部は診察室・処置室の他に内視鏡室・X線室が設置されています。受付を中心に診察部門と検査部門を分けて配置し、患者さんにとって分かりやすい動線としました。待合はクリニックのイメージカラーのオレンジを受付周辺に使い、空間にアクセントを与えました。



↑正面 前面道路から



↑待合

### ○担当者レポート(前田直美)

コロナ禍での設計監理業務のため、初めてリモートでの打合せを行いました。対面の打合せとは異なり、要望の意図をくみ取ることが難しく、今までより丁寧に確認するよう注意しました。昨今の状況を踏まえて、発熱外来の対応等今までになかった要望もありました。専用の控室を設ける等の検討を重ねた結果、専用の出入口を設け、待合を介さずに診察を受けられる動線とし、診察室の一室で対応できるようにしました。

今回は状況が変わり、様々な変化がありました。その時々々の状況・ニーズに合わせた柔軟な対応ができるように心がけていきたいです。



↑処置室・リカバリー室



↑スタッフルーム

発行が予定より遅れてしまい、お待たせしました。今後もタイムリーに情報をお届け出来るよう頑張っていくと思います。